

現代青少年の価値観に関する調査研究  
～平成18年度静岡県青少年問題協議会実施調査結果から～

A Research on the Value system of Young People

松永 由弥子  
Yumiko MATSUNAGA

(平成19年9月25日受理)

## 要旨

現代の青少年像の一端を価値観の観点から明らかにするために、平成18年度に静岡県青少年問題協議会・静岡県教育委員会が実施した「平成18年度現代青少年の意識及び生活実態等に関する調査」結果について、多変量解析の1つであるカテゴリ主成分分析とクラスタ分析を行い、青少年の価値判断基準の析出とそれに基づく価値観の類型化を試みた。

分析の結果、2つの価値判断基準を析出し、中学生については3類型、高校生、大学生等（大学生・専門学校生・青年社会人）については4類型に分類することができた。価値判断基準の1つは、中学生・高校生・大学生等に共通して調査の単純集計結果にも顕著に表れた「個人重視か社会重視か」という軸であった。もう1つの基準は、中学生・高校生においては「日常不可欠なものが大切か欲求を重要視するか」で、大学生等では「日常現実的なものを大切にするか非日常希望的なものを大切にするか」という軸であった。これらの基準をもとにクラスタ分析を行い、サンプル集団の類型化を行ったところ、中学生は社会重視型、欲求重要視・個人重視型、日常不可欠・個人重視型の3つのクラスタに、高校生は日常不可欠・個人重視型、欲求重要視・個人重視型、やや社会重視型、社会重視型4つのクラスタに、大学生は社会重視型、非日常希望的・個人重視型、日常現実的・個人重視型、やや社会重視型の4クラスタに分けられた（ただし、高校生、大学生等ともにやや社会重視型と社会重視型は少数）。中学生・高校生では、クラスタ別で家族との食事の様子や会話の頻度、友人関係、なりたい大人像などに違いがみられた。

分析により、2つの価値判断基準の析出やいくつかの価値観の類型化ができたものの、現代青少年の価値判断基準は「個人的なものの重視」に著しく偏っていることが明らかとなった。日々の何気ない生活の積み重ねが、大切なものの判断基準に影響していると考えられるため、社会を意識した判断基準は、日常の中で、徐々に人間の集団や社会に眼を向ける考え方や活動を広げていくことにより身につくと予測できる。また、青少年の現時点での価値観が、彼らの将来の見方に影響を与えている。青少年に社会を意識した価値判断基準を身につけてもらい、よりよい将来をえがいてもらうことが必要であると考えられる。

## 1. はじめに

本稿は、現代の青少年像の一端を価値観に関する調査結果の分析から明らかにしようと

するものである。いつの時代にあっても、若者は年長者から「今の若いもんは…」と批判を受ける対象である。そうは言いながら、現代ほど、その若者の姿を大人が批判できるほどはっきりと把握できていない時代はないように思われる。社会では、青少年の規範意識の低下が指摘され、犯罪の低年齢化、凶悪化が進行している。特に、その中で、普段は目立たない青少年が残忍な事件を起こしたり、言葉の暴力などによるいじめやネットでの誹謗・中傷のように被害者に精神的に大きなダメージを与える陰湿ないじめが増えていたり、これまでの既成概念からすれば、いわゆる「信じられない」出来事が増加している。このような背景には、家族、地域、学校、社会など、青少年を取り巻く様々な外部環境の変化が影響していると思われるが、同時に青少年自身の考え方や価値観も変化してきていることもあると考えられる。大人が考える青少年像は、自分たちが子どもだった頃に立ち返ることを出発点としがちであるが、現代青少年は我々大人とはまったく異なる考え方のもとに行動しているのかもしれない。

そこで、第25期静岡県青少年問題協議会では、「新しい青少年像とそれを支援する大人の役割」をテーマとし、現代青少年の現状を把握し、そこから新しい青少年像を浮かび上がらせようと協議を行った。その協議に際しては、平成18年度に「現代青少年の意識及び生活実態等に関する調査」を行い、現代青少年の実態把握を試みた。

本稿では、その調査の中でも、特に価値観に関する調査結果に焦点をあてた分析を行い、現代青少年像の一端を明らかにしようと思う。

## 2. 分析の方法

分析にあたっては、前述のとおり、平成18年度に静岡県青少年問題協議会・静岡県教育委員会が実施した「平成18年度現代青少年の意識及び生活実態等に関する調査」<sup>1</sup>の結果を用いた。

この調査の問3では、表1に示すような選択肢を設定し、日頃大切にしたり、大切に思ったりしていることを最大5つまで選んでもらった。選択肢の設定にあたっては、生活様式の5領域<sup>2</sup>と、個人的なものを重視するか社会的なものを重視するかの2つの観点を組み合わせることができる10の条件から、計30個を抽出した(表2)。

表1

問3 あなたが、日頃大切にしたり、大切だと思ったりしていることは何ですか。

(○は5つまで)

Q 3.1 健康	Q 3.2 商店街の活性化	Q 3.3 近所づきあい
Q 3.4 自然環境の保持	Q 3.5 恋愛	Q 3.6 働くこと
Q 3.7 友だち	Q 3.8 食べること	Q 3.9 医療施設
Q 3.10 結婚	Q 3.11 ケータイ	Q 3.12 お祭り
Q 3.13 家族	Q 3.14 子どもの遊び場	Q 3.15 町内会
Q 3.16 勉強	Q 3.17 一家団らん	Q 3.18 地域の災害防止
Q 3.19 お金	Q 3.20 買い物	Q 3.21 ブランド品を持つ
Q 3.22 学校	Q 3.23 有名になること	Q 3.24 寝ること
Q 3.25 家事や仕事の手伝い	Q 3.26 公民館や図書館	Q 3.27 防犯パトロール
Q 3.28 ボランティア活動	Q 3.29 地元の特産品	Q 3.30 インターネットのショッピングサイト

表2 問3 選択肢の抽出枠組み

	生物的機能保持	財とサービスの生産と分配	成員の再生産と社会化	秩序維持	生活への意味づけと動機づけ
個人的なものを重視	健康 (Q3.1) 食べること (Q3.8) 寝ること (Q3.24)	お金 (Q3.19) 働くこと (Q3.6) 買い物 (Q3.20)	勉強 (Q3.16) 結婚 (Q3.10) 家族 (Q3.13)	一家団らん (Q3.17) 友だち (Q3.7) 恋愛 (Q3.5)	ケータイ (Q3.11) 有名になること (Q3.23) ブランド品を持つ (Q3.21)
社会的なものを重視	自然環境の保持 (Q3.4) 地域の災害防止 (Q3.18) 医療施設 (Q3.9)	商店街の活性化 (Q3.2) 地元の特産品 (Q3.29) インターネットのショッピングサイト (Q3.30)	学校 (Q3.22) 子どもの遊び場 (Q3.14) 公民館や図書館 (Q3.26)	近所づきあい (Q3.3) 町内会 (Q3.15) 防犯パトロール (Q3.27)	お祭り (Q3.12) ボランティア活動 (Q3.28) 家事や仕事の手伝い (Q3.25)

調査結果の分析については、まず、多変量解析の中のカテゴリ主成分分析<sup>3</sup>を用いて、中学生・高校生・大学生等（大学生・専門学校生・青年社会人）別に、価値判断の基準の析出を試みた。

次に、上記の分析から析出された価値判断基準を用いて、クラスタ分析<sup>4</sup>を行い、中学生・高校生・大学生等の各サンプル集団の類型化を試みた。類型化された各集団（クラスタ）については、具体的にどのような性質の集団であるかを明確にするために、性別、学年、軸の析出に使用した設問（表1）とのクロス集計を行った上で、さらにこの調査での別の質問項目とのクロス集計を行い、クラスタの特性を明らかにした。

### 3. 調査結果及び分析結果

#### (1) 単純集計結果と選択肢の設定からみた青少年の重視しているもの

表3は、問3の単純集計結果（中学校・高校・大学等別のクロス集計結果も含む）である。全体では、「友だち」が80.7%と最も多く、次いで「家族」（59.2%）、「健康」（53.1%）、「お金」（45.8%）、「寝ること」（40.0%）となっている。学校種類別にみても、これら5項目が共通して上位を占めている。

この結果を表2の選択肢の抽出枠組みと照らし合わせてみると、比率の高い上位9位までは、すべて「個人的なものを重視」することと5つの生活領域のいずれかを組み合わせた条件から抽出された選択肢であることがわかる。回答の比率が10%を超える選択肢の中で「社会的なものを重視」する観点から抽出した選択肢は、わずかに「学校」のみであった。このことから、青少年の日常生活では、もっぱら個人的なことが重視されていることが読み取れる。

表 3 問 3 の集計結果

(%)

	全体	中学校	高等学校	大学等 (専門学校・大学・社会人)
調査数	3433人	887人	1203人	1343人
1 健康	53.1	52.0	48.2	58.3
2 商店街の活性化	0.7	0.5	0.8	0.7
3 近所づきあい	4.7	7.9	3.7	3.4
4 自然環境の保持	6.6	9.4	5.2	6.1
5 恋愛	31.0	19.7	32.1	37.4
6 働くこと	13.0	6.8	9.1	20.6
7 友だち	80.7	82.8	81.5	78.7
8 食べること	26.0	21.6	27.1	27.8
9 医療施設	1.7	2.5	1.4	1.3
10 結婚	3.2	1.9	3.0	4.2
11 ケータイ	16.0	15.2	24.5	8.9
12 お祭り	5.9	9.4	5.1	4.5
13 家族	59.2	66.9	53.8	59.1
14 子どもの遊び場	1.3	1.6	0.6	1.6
15 町内会	0.5	0.3	0.6	0.4
16 勉強	22.0	27.8	21.7	18.4
17 一家団らん	11.3	14.0	9.0	11.5
18 地域の災害防止	0.6	1.0	0.4	0.4
19 お金	45.8	48.8	44.6	44.8
20 買い物	7.5	7.3	7.1	7.8
21 ブランド品を持つ	1.1	1.1	1.1	1.0
22 学校	15.5	14.0	14.7	17.1
23 有名になること	1.7	1.7	1.7	1.8
24 寝ること	40.0	36.1	45.0	38.0
25 家事や仕事の手伝い	3.7	4.5	3.5	3.4
26 公民館や図書館	1.4	1.7	1.4	1.3
27 防犯パトロール	0.8	1.1	0.7	0.7
28 ボランティア活動	3.6	4.1	2.3	4.5
29 地元の特産品	0.6	0.7	0.7	0.5
30 インターネットのショッピングサイト	0.9	0.8	0.5	1.3
31 その他	6.8	7.8	5.5	7.4
32 無回答	0.5	0.7	0.6	0.3

## (2) カテゴリ主成分分析の結果～「個人的なものを重視」以外の価値基準はあるか?～

単純純集計結果においては、「友だち」が80.7%と圧倒的な比率を占め、その他も「家族」「健康」「お金」「寝ること」が4割以上の比率となる一方で、「医療施設」などの11項目では2%以下の比率となるなど、回答傾向に大きな偏りがあった。このような回答傾向となる根拠はどこにあると考えればよいただろうか。また、青少年は「個人的なものを重視」する以外にも、大切なものの判断基準を何か持っているのだろうか。青少年の大切なものは「友だち」「家族」などのいわゆる名詞の形では明らかにできたものの、それを選んでいる基準は、こちら（調査者である大人）の仮説では「個人的なものを重視」という基準しか見出せなかった。そこで、大切なものの判断基準がこれ以外にもあるのか、あるとすればどのようなことかについて、ここでは、カテゴリ主成分分析により、新たな判断基準の析出を試みた。この結果、学校種類別の分析で、どの校種においても、個人的なものを重視する判断基準以外にもう1つの判断基準が存在することを明らかにできた。

## ① 中学生の価値判断の基準

表4・表5及び図1は中学生の場合の分析結果である。分析の結果、30の選択肢について2つの要素（軸）に対する得点が得られた。この得点とは、30の選択肢が相互にどのような関係にあるかを数値で示したものである。そして、表4と表5は、各要素（軸）ごとに、選択肢を得点の高い順に並べた結果である。なお、図1はこの2要素を2つの数直線の軸として作成した座標図上に、各選択肢の2つの得点を座標として記したものである。

中学生の場合、表4の1軸においては、「近所づきあい」「自然環境の保持」「医療施設」「子どもの遊び場」「ボランティア活動」などの得点がプラスで、「恋愛」「友だち」「ケータイ」「家族」「お金」などの得点がマイナスであることから、この軸はプラス方向に社会的なものを重視、マイナス方向に個人的なものを重視する「社会重視－個人重視」の軸ととらえられる。一方、表5の2軸では、「恋愛」「食べること」「ケータイ」「お祭り」「子どもの遊び場」「お金」「買い物」「ブランド品を持つ」「寝ること」などがプラス得点で、「健康」「友だち」「家族」「勉強」「一家団らん」などがマイナス得点であった。これをみると、プラス得点の項目は、こういうことをしたいという欲求のレベルで中学生が重要視しているもの、マイナス得点の項目は、日常生活の中で常に身近にありかつ欠かせないものとして中学生が大切だと意識しているものにとらえられる。そのように考えれば、この軸は「欲求重要視－日常不可欠」の軸といえるのではないだろうか。

表 4 中学生 判断基準 1

1 軸		
Q 3 . 4	自然環境の保持	0.46
Q 3 . 9	医療施設	0.39
Q 3 . 3	商店街の活性化	0.38
Q 3 . 28	ボランティア活動	0.35
Q 3 . 14	子どもの遊び場	0.30
Q 3 . 18	地域の災害防止	0.29
Q 3 . 2	近所づきあい	0.27
Q 3 . 6	働くこと	0.24
Q 3 . 12	お祭り	0.24
Q 3 . 26	公民館や図書館	0.24
Q 3 . 25	家事や仕事の手伝い	0.23
Q 3 . 17	一家団らん	0.19
Q 3 . 27	防犯パトロール	0.19
Q 3 . 29	地元の特産品	0.19
Q 3 . 15	町内会	0.04
Q 3 . 30	インターネットのショッピングサイト	0.02
Q 3 . 21	ブランド品を持つ	0.01
Q 3 . 1	健康	0.00
Q 3 . 8	食べること	0.00
Q 3 . 20	買い物	-0.01
Q 3 . 10	結婚	-0.03
Q 3 . 23	有名になること	-0.04
Q 3 . 24	寝ること	-0.07
Q 3 . 22	学校	-0.08
Q 3 . 16	勉強	-0.10
Q 3 . 5	恋愛	-0.28
Q 3 . 11	ケータイ	-0.28
Q 3 . 19	お金	-0.28
Q 3 . 13	家族	-0.29
Q 3 . 7	友だち	-0.58

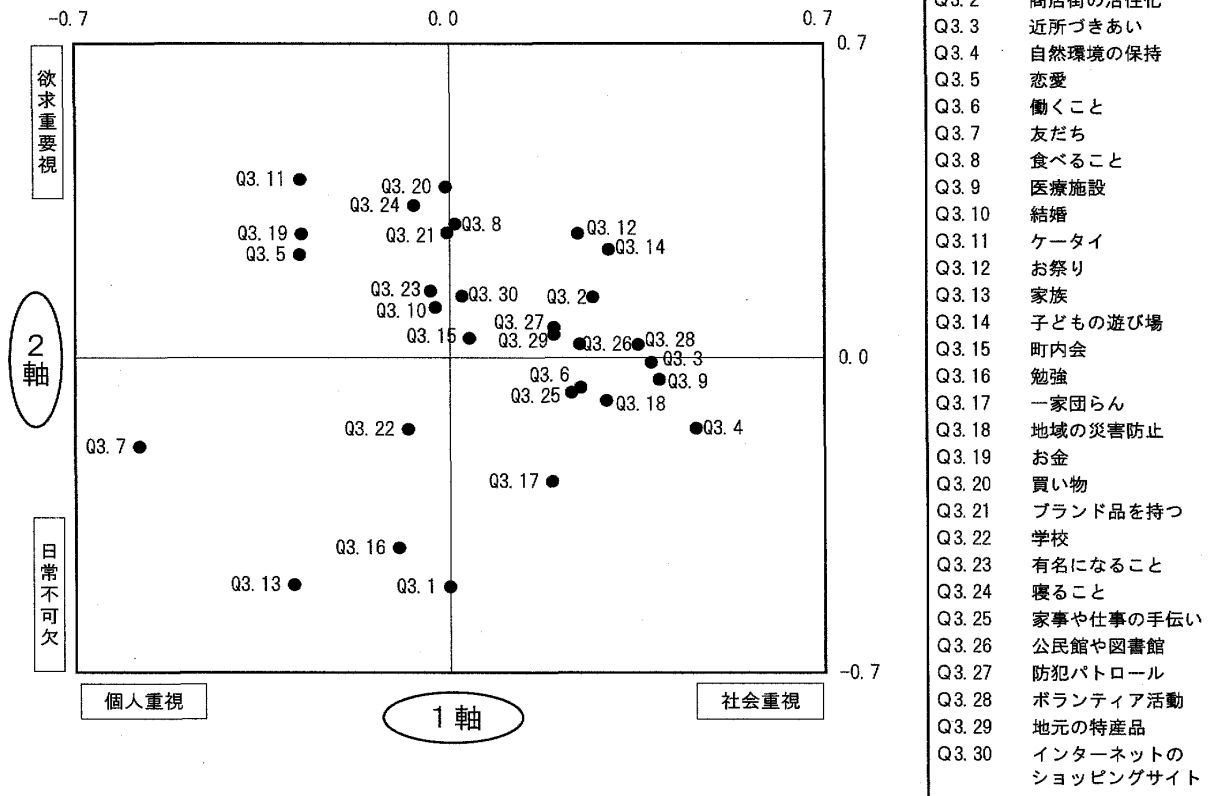
社会重視 ↑  
↓ 個人重視

表 5 中学生 判断基準 2

2 軸		
Q 3 . 11	ケータイ	0.40
Q 3 . 20	買い物	0.38
Q 3 . 24	寝ること	0.34
Q 3 . 21	ブランド品を持つ	0.30
Q 3 . 8	食べること	0.28
Q 3 . 12	お祭り	0.28
Q 3 . 19	お金	0.27
Q 3 . 14	子どもの遊び場	0.24
Q 3 . 5	恋愛	0.23
Q 3 . 23	有名になること	0.15
Q 3 . 30	インターネットのショッピングサイト	0.14
Q 3 . 2	近所づきあい	0.13
Q 3 . 10	結婚	0.11
Q 3 . 27	防犯パトロール	0.07
Q 3 . 29	地元の特産品	0.05
Q 3 . 15	町内会	0.04
Q 3 . 26	公民館や図書館	0.03
Q 3 . 28	ボランティア活動	0.03
Q 3 . 3	商店街の活性化	-0.01
Q 3 . 9	医療施設	-0.05
Q 3 . 6	働くこと	-0.07
Q 3 . 25	家事や仕事の手伝い	-0.08
Q 3 . 18	地域の災害防止	-0.09
Q 3 . 4	自然環境の保持	-0.16
Q 3 . 22	学校	-0.16
Q 3 . 7	友だち	-0.20
Q 3 . 17	一家団らん	-0.27
Q 3 . 16	勉強	-0.42
Q 3 . 1	健康	-0.51
Q 3 . 13	家族	-0.51

欲求重要視 ↑  
↓ 日常不可欠

図1 中学生 選択肢分布図



②高校生の価値判断の基準

高校生においても、中学生とはほぼ同様の傾向がみられた。分析結果を示す表6・表7及び図2の見方は中学生のものと同じである。

表6の1軸では「商店街の活性化」「医療施設」「町内会」「地域の災害防止」「ブランド品を持つ」「防犯パトロール」「地元の特産品」などの得点がプラスで、「友だち」「家族」などの得点がマイナスであった。「ブランド品を持つ」がプラス得点ではあるが、ブランド品を持つことを不特定多数の人(=社会)を意識する行為ととらえれば、やはりこの軸は「社会重視-個人重視」の軸とみることができよう。表7の2軸のほうでは、「健康」「自然環境の保持」「家族」「勉強」「一家団らん」「家族や仕事の手伝い」などがプラス得点で、「恋愛」「ケータイ」「お祭り」「お金」「買い物」「ブランド品を持つ」などがマイナス得点であった。ここではプラスとマイナスの方向が中学生の場合と逆転しているが、軸としては「欲求重要視(高校生ではマイナス方向)-日常不可欠(高校生ではプラス方向)」の軸と解釈できる。高校生の場合には、日常不可欠の方向に、「自然環境の保持」や「家事や仕事の手伝い」のような、中学生よりもやや社会やその中の自分の役割に目を向けた項目が挙げられている。

表6 高校生 判断基準1

1軸		
Q3.27	防犯パトロール	0.69
Q3.2	商店街の活性化	0.68
Q3.29	地元の特産品	0.50
Q3.18	地域の災害防止	0.46
Q3.9	医療施設	0.39
Q3.15	町内会	0.37
Q3.21	ブランド品を持つ	0.37
Q3.30	インターネットのショッピングサイト	0.25
Q3.3	近所づきあい	0.22
Q3.25	家事や仕事の手伝い	0.17
Q3.6	働くこと	0.16
Q3.12	お祭り	0.15
Q3.28	ボランティア活動	0.14
Q3.4	自然環境の保持	0.13
Q3.23	有名になること	0.07
Q3.26	公民館や図書館	0.07
Q3.17	一家団らん	0.06
Q3.20	買い物	0.05
Q3.14	子どもの遊び場	0.03
Q3.10	結婚	0.01
Q3.11	ケータイ	0.01
Q3.22	学校	-0.06
Q3.8	食べること	-0.08
Q3.24	寝ること	-0.08
Q3.5	恋愛	-0.09
Q3.16	勉強	-0.10
Q3.19	お金	-0.12
Q3.1	健康	-0.17
Q3.13	家族	-0.26
Q3.7	友だち	-0.43

↑ 社会重視  
↓ 個人重視

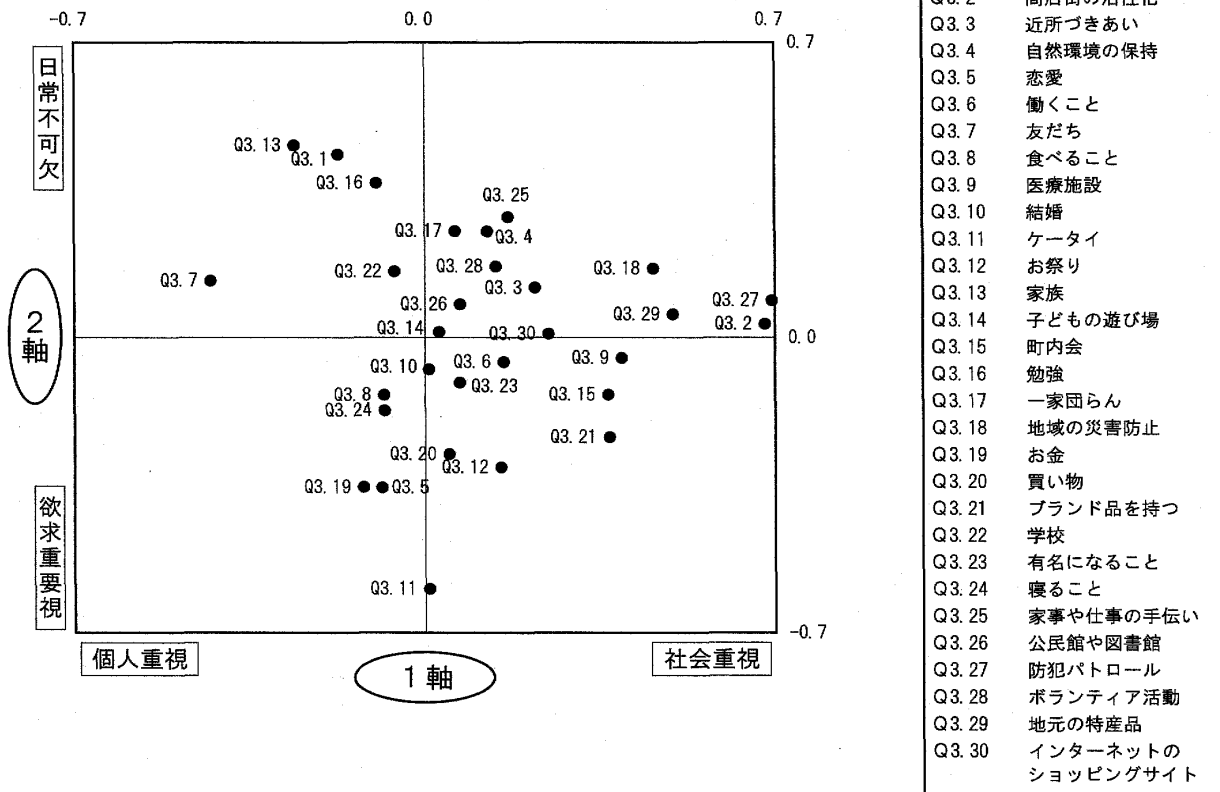
表7 高校生 判断基準2

2軸		
Q3.13	家族	0.46
Q3.1	健康	0.43
Q3.16	勉強	0.37
Q3.25	家事や仕事の手伝い	0.28
Q3.4	自然環境の保持	0.25
Q3.17	一家団らん	0.25
Q3.28	ボランティア活動	0.17
Q3.22	学校	0.16
Q3.18	地域の災害防止	0.16
Q3.7	友だち	0.13
Q3.3	近所づきあい	0.12
Q3.27	防犯パトロール	0.09
Q3.26	公民館や図書館	0.08
Q3.29	地元の特産品	0.05
Q3.2	商店街の活性化	0.03
Q3.30	インターネットのショッピングサイト	0.01
Q3.14	子どもの遊び場	0.01
Q3.9	医療施設	-0.05
Q3.6	働くこと	-0.06
Q3.10	結婚	-0.08
Q3.23	有名になること	-0.11
Q3.8	食べること	-0.14
Q3.15	町内会	-0.14
Q3.24	寝ること	-0.17
Q3.21	ブランド品を持つ	-0.24
Q3.20	買い物	-0.28
Q3.12	お祭り	-0.31
Q3.19	お金	-0.35
Q3.5	恋愛	-0.36
Q3.11	ケータイ	-0.60

↑ 日常不可欠  
↓ 欲求重視



図2 高校生 選択肢分布図



③大学生等の価値判断の基準

さらに大学生等の場合の分析結果が表8・表9および図3である。表と図の見方は中学生、高校生の場合と同じである。

表8の1軸については「商店街の活性化」「町内会」「地域の災害防止」「公民館や図書館」「防犯パトロール」「地元の特産品」などがプラス得点で、「恋愛」「友だち」などがマイナス得点であった。したがって、中学生、高校生の場合と同様、この1軸を「社会重視—個人重視」の軸とみることができる。一方、表9の2軸については、中学生、高校生と若干違う傾向がみられた。ここでは、「近所づきあい」「働くこと」「医療施設」「結婚」「ケータイ」「お祭り」「お金」「買い物」「有名になること」がプラス得点で、「健康」「友だち」「家族」「勉強」「学校」がマイナス得点であった。マイナス方向については、中学生や高校生と同様に日常生活の中で常に大切だと思うものが挙げられている。しかし、プラス方向については、「ケータイ」「買い物」「お祭り」のようにそういうことはあるといいなと思う欲求的なものに加え、「近所づきあい」「医療施設」「働くこと」のように彼らの今の日常生活に直接的には係わっていないものの、近い将来大切になることであって考えなくてはいけないことだと思っていることが挙げられているととらえられる。この方向をここでは彼ら自身の日常からはやや離れたものを志向するととらえ、「非日常希望的」と呼びたい。したがって軸としては、中学生・高校生とは若干違い、「非日常希望的—日常現実的」の軸と解釈することとする。大学生等は、「こうしたい」という個人の欲求がストレートに大切なものに結びつくのではなく、現実や社会を直視した上で、冷静に大切なものを考えるような一面も持つようになってきているのではないだろうか。

以上の分析から、どの年代の青少年でも、大切なものの判断基準として、個人的なものを重視するかどうかだけでなく、少なくとももう1つ別に、日常生活の上にとった価値判断が働いていると考えられる。

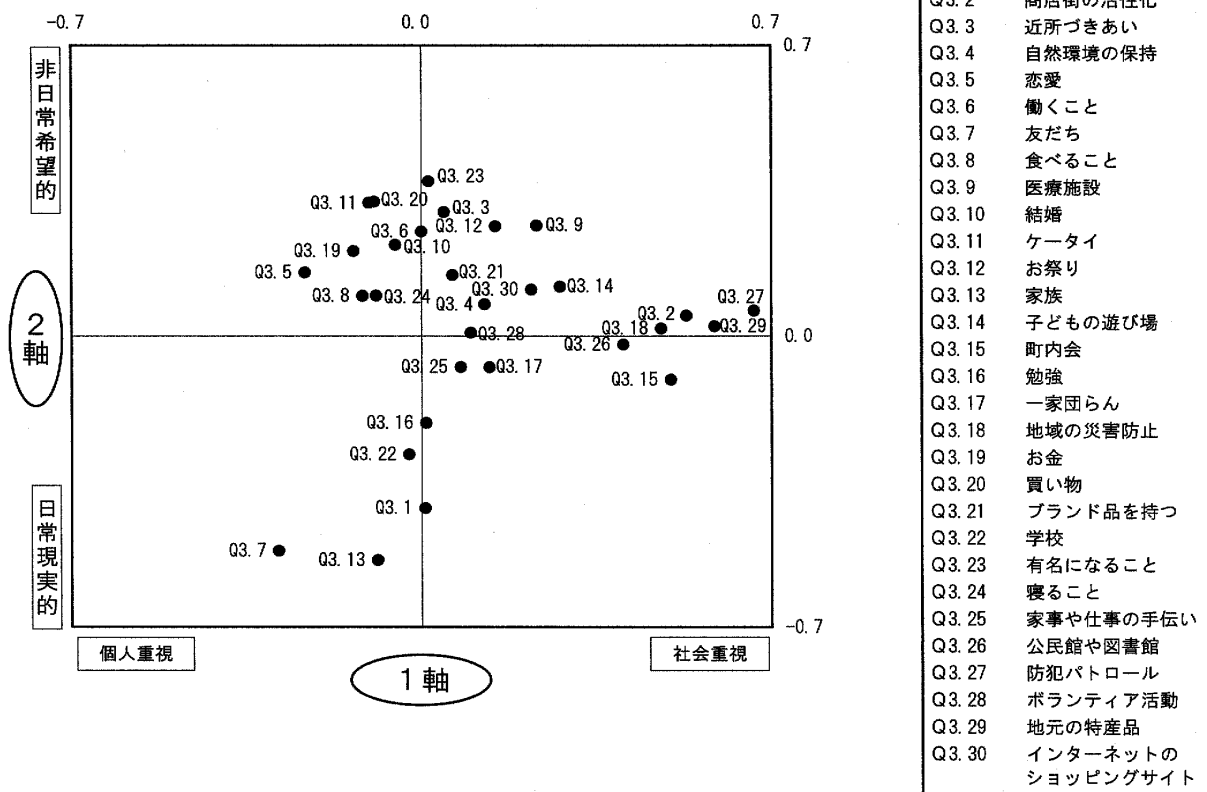
表 8 大学生等 判断基準 1

1 軸			社会重視 ↑
Q 3.27	防犯パトロール	0.66	
Q 3.29	地元の特産品	0.59	
Q 3.2	商店街の活性化	0.53	
Q 3.15	町内会	0.50	
Q 3.18	地域の災害防止	0.48	
Q 3.26	公民館や図書館	0.40	
Q 3.14	子どもの遊び場	0.28	
Q 3.9	医療施設	0.23	
Q 3.30	インターネットのショッピングサイト	0.22	
Q 3.12	お祭り	0.15	
Q 3.17	一家団らん	0.14	
Q 3.4	自然環境の保持	0.13	
Q 3.28	ボランティア活動	0.10	
Q 3.25	家事や仕事の手伝い	0.08	
Q 3.21	ブランド品を持つ	0.06	
Q 3.3	近所づきあい	0.05	
Q 3.1	健康	0.01	
Q 3.16	勉強	0.01	
Q 3.23	有名になること	0.01	
Q 3.6	働くこと	0.00	
Q 3.22	学校	-0.03	
Q 3.10	結婚	-0.05	
Q 3.13	家族	-0.09	
Q 3.20	買い物	-0.09	
Q 3.24	寝ること	-0.09	
Q 3.11	ケータイ	-0.10	
Q 3.8	食べること	-0.12	
Q 3.19	お金	-0.14	
Q 3.5	恋愛	-0.23	
Q 3.7	友だち	-0.29	
			個人重視 ↓

表 9 大学生等 判断基準 2

2 軸			非日常希望的 ↑
Q 3.23	有名になること	0.37	
Q 3.11	ケータイ	0.32	
Q 3.20	買い物	0.32	
Q 3.3	近所づきあい	0.30	
Q 3.9	医療施設	0.26	
Q 3.12	お祭り	0.26	
Q 3.6	働くこと	0.25	
Q 3.10	結婚	0.22	
Q 3.19	お金	0.20	
Q 3.5	恋愛	0.15	
Q 3.21	ブランド品を持つ	0.15	
Q 3.14	子どもの遊び場	0.12	
Q 3.30	インターネットのショッピングサイト	0.11	
Q 3.8	食べること	0.10	
Q 3.24	寝ること	0.10	
Q 3.4	自然環境の保持	0.08	
Q 3.27	防犯パトロール	0.06	
Q 3.2	商店街の活性化	0.05	
Q 3.18	地域の災害防止	0.02	
Q 3.29	地元の特産品	0.02	
Q 3.28	ボランティア活動	0.01	
Q 3.26	公民館や図書館	-0.02	
Q 3.25	家事や仕事の手伝い	-0.07	
Q 3.17	一家団らん	-0.08	
Q 3.15	町内会	-0.10	
Q 3.16	勉強	-0.21	
Q 3.22	学校	-0.28	
Q 3.1	健康	-0.41	
Q 3.7	友だち	-0.52	
Q 3.13	家族	-0.54	
			日常現実的 ↓

図3 大学生 選択肢分布図



### (3) クラスタ分析の結果～類型化による集団の析出～

カテゴリ主成分分析により得られた価値判断基準（軸）をもとに、次にクラスタ分析を行った結果、以下に述べるように、中学生は3つのクラスタ、高校生、大学生等は4つのクラスタに分けられた。各クラスタについては、性別、学年、軸の析出に使用した問3、加えて、朝食や夕食をだれと食べるか、友人関係、理想の大人像などこの調査での別の質問項目とのクロス集計を行った結果、特に中学生のクラスタについてはそれぞれの特徴を明らかにすることができた。

①中学生の類型化

中学生の場合は、図4に示すような社会重視型の第1クラスタ、欲求重要視・個人重視型の第2クラスタ、日常不可欠・個人重視型の第3クラスタの3つのクラスタに分けられた。男女とも第3クラスタに分類されるサンプル（回答者）数が最も多かった。ただし、中学生の回答はすべて中学2年生であったため、学年による差はみることができなかった。

図4 中学生のクラスタ分割図

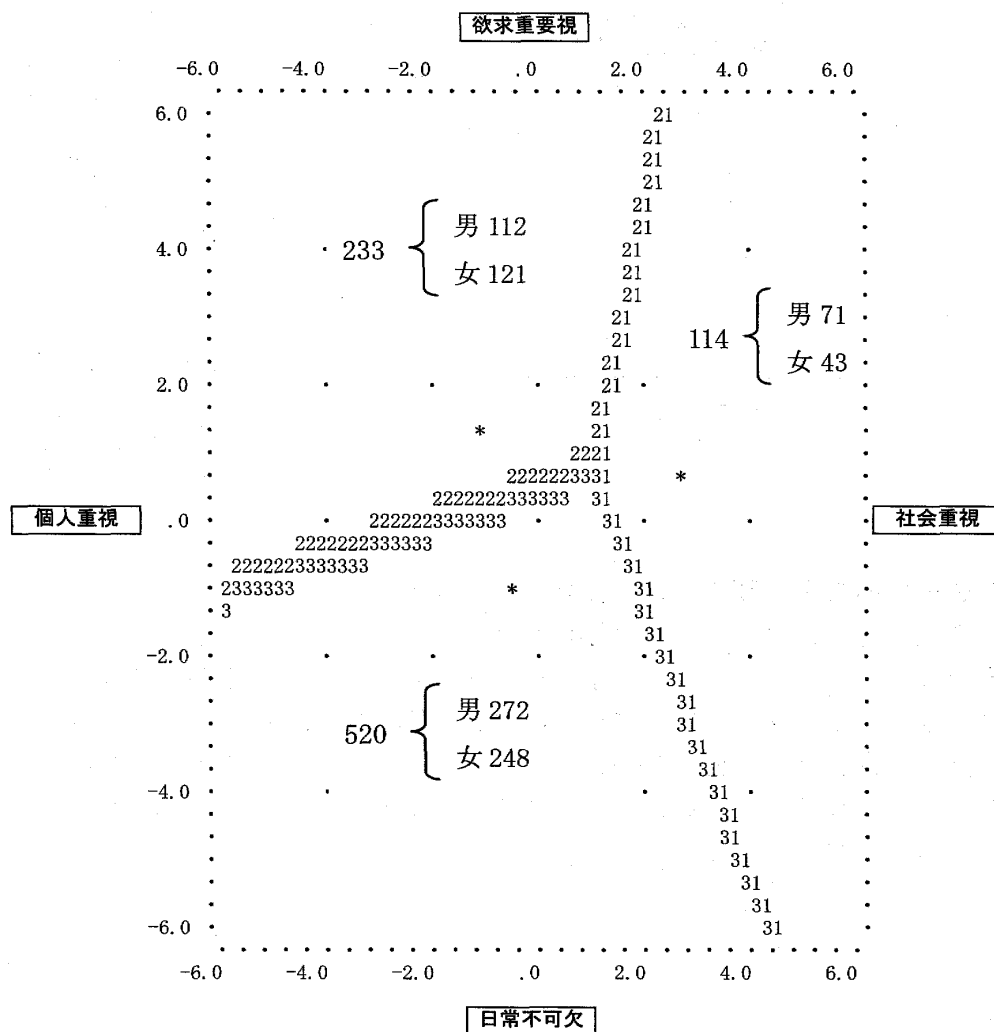


表10に示すように、各クラスタの問3への回答の傾向をみると、第1クラスタでは、平均より10ポイント以上高い項目は、「自然環境の保持」38.5%、「近所づきあい」31.6%、「お祭り」24.8%、「ボランティア活動」21.4%、「医療施設」16.2%となっている。また、平均より5～10ポイント高い項目は、「一家団らん」21.4%、「働くこと」15.4%、「家事や仕事の手伝い」12.0%、「公民館や図書館」11.1%、「子どもの遊び場」9.4%、「地域の災害防止」7.7%であった。社会的なものを重視する項目への回答比率が確かに高い。第2クラスタでは、平均より10ポイント以上高い項目は、「お金」73.9%、「寝ること」56.0%、「ケータイ」39.7%、「食べること」37.6%、「恋愛」35.9%、「買い物」18.4%となっ

ている。なお、平均より5～10ポイント高い項目はなかった。中学生が率直に欲求にしたがってしてみたいことが重視されている。第3クラスでは、平均より10ポイント以上高い項目は、「家族」83.6%、「健康」69.6%、「勉強」40.2%で、平均より5～10ポイント高い項目は、「友だち」93.0%であった。生活の中で身近でかけがえのないものが重視されている。

また、このような大切なものの考え方が、彼らの行動などに実際に反映していることは、ほかの質問項目とのクロス集計によって明らかにすることができた。

家族とのかかわり方については、調査項目中のフェースシート部分での質問「F5 あなたは誰と一緒に朝食を食べますか」、「F6 あなたは誰と一緒に夕食を食べますか」、「問10 次の身近な人とはどこまで話しますか」への回答結果をクラスター別にみたところ、家族を大切に考える第3クラス、および第1クラスと、第2クラスでは、一緒に食事をする人や身近な人に話す程度に違いがみられた。第1クラスや第3クラスでは、父親や母親、兄弟・姉妹など家族と一緒に朝食や夕食をとる比率が高く、第2クラスでは朝食・夕食をひとりで食べる比率が高い。第1クラスと第2クラスでは、朝食を食べない比率が高かった（表11・表12）。また、会話の程度をみると（表13～18）、第3クラスでは家族全般との会話が良くされているが、特に母親とは自分の気持ちや悩みなどもよく話している。また、第3クラスの場合には、学校の先生ともよく話す傾向にある。第2クラスでは、兄弟・姉妹との会話はよくなされているようである。第1クラスでは、祖父母との会話がほかのクラスターよりもよくなされている。

友だちとの関係については、調査項目中の「問5 現在の友人関係でストレスがたまることはありますか」、「問6 現在の友人関係に満足していますか」への回答結果をクラスター別にみたところ（表19・表20）、第1クラスでは、ストレスがあり、友人関係に満足していないが、第3クラスでは、ストレスがあまりなく、友人関係に満足している。

さらに、現在の価値観と将来についての考え方に何か関連があるかをみるために、「問13 あなたは、どんな大人になりたいですか」、「問16 あなたはこれからの日本は明るいと思いますか、暗いと思いますか」の質問項目へのクラスター別の回答傾向を比較した。問13については（表21）、第1クラスでは「迷惑をかけない人」「協調性がある人」「正義感がある人」「落ち着きのある人」「国際的視野の広い人」「自己管理ができる人」「地域のために活動する人」「自分らしく生きている人」「特技を活かしている人」の比率が高く、第2クラスでは「好奇心旺盛な人」「元気な人」「おしゃれな人」「かっこいい人」「きれいな人」「年収の多い人」「お金持ちの人」「仕事で成功してる人」「幸せな人」「明るい人」の比率が高い。第3クラスでは「思いやりがある人」「努力できる人」「優しい人」「健康的な人」「常識のある人」「親切な人」の比率が高かった。各クラスターの現時点での価値判断基準がそのまま大人の理想像の選択基準に適用されていると考えられる回答傾向であった。なお、問16については（表22）、第1クラスではこれからの日本を暗いと思う比率が、第3クラスでは明るいと思う比率が、他のクラスターより高かった。

表10 中学生・クラス別に見た問3での回答

(複数回答) (%)

クラス番号 所属人数 全体割合 (%)	① 114 (13.1)	② 233 (26.9)	③ 520 (60.0)	平均 867 (100)
1 健康	45.3	16.7	◎69.6	52.3
2 商店街の活性化	3.4	0.0	0.5	0.5
3 近所づきあい	◎31.6	1.7	5.5	7.9
4 自然環境の保持	◎38.5	0.4	7.0	9.4
5 恋愛	5.1	◎35.9	16.0	19.9
6 働くこと	○15.4	3.4	6.4	6.8
7 友だち	40.2	82.9	○93.0	83.3
8 食べること	17.9	◎37.6	15.7	21.8
9 医療施設	◎16.2	0.0	0.6	2.5
10 結婚	1.7	3.8	1.1	1.9
11 ケータイ	4.3	◎39.7	7.0	15.3
12 お祭り	◎24.8	14.1	4.0	9.4
13 家族	42.7	42.7	◎83.6	67.3
14 子どもの遊び場	○9.4	1.3	0.0	1.6
15 町内会	0.9	0.0	0.4	0.3
16 勉強	16.2	6.4	◎40.2	28.0
17 一家団らん	○21.4	2.6	17.5	14.1
18 地域の災害防止	○7.7	0.0	0.0	1.0
19 お金	30.8	◎73.9	42.3	49.1
20 買い物	6.8	◎18.4	2.6	7.4
21 ブランド品を持つ	0.9	3.8	0.0	1.1
22 学校	6.8	10.7	17.2	14.1
23 有名になること	0.9	3.8	0.9	1.7
24 寝ること	26.5	◎56.0	29.8	36.3
25 家事や仕事の手伝い	○12.0	1.3	4.3	4.5
26 公民館や図書館	○11.1	0.4	0.2	1.7
27 防犯パトロール	5.1	1.3	0.2	1.1
28 ボランティア活動	◎21.4	1.7	1.3	4.1
29 地元の特産品	4.3	0.0	0.2	0.7
30 インターネットのショッピングサイト	0.9	2.1	0.2	0.8

◎：平均より10ポイント以上高いもの  
○：平均より5～10ポイント高いもの

現代青少年の価値観に関する調査研究

表11 中学生・クラスタ別にみた朝食を一緒に食べる人 (F 5) (複数回答) (%)

	父親	母親	兄弟・姉妹	ひとりで食べる	食べない
第1クラスタ	28.9	39.5	62.3	21.9	7.0
第2クラスタ	26.2	30.9	46.8	33.9	6.9
第3クラスタ	30.8	40.6	62.1	26.0	1.2

表12 中学生・クラスタ別にみた夕食を一緒に食べる人 (F 6) (複数回答) (%)

	父親	母親	兄弟・姉妹	ひとりで食べる	食べない
第1クラスタ	50.0	77.2	78.9	11.4	0.9
第2クラスタ	43.8	75.1	68.7	13.3	1.3
第3クラスタ	52.9	85.0	78.3	6.0	0.0

表13 中学生・クラスタ別にみた身近な人 (父) と話す程度 (問10) (%)

	自分の気持ちや 悩みなども話す	その日あったでき ごとなどを話す	必要なこと だけ話す	聞かれた事に対す る返事だけする	まったく 話さない	身近にいない
第1クラスタ	7.2	31.5	29.7	16.2	5.4	9.9
第2クラスタ	4.4	22.5	33.0	20.7	6.6	12.8
第3クラスタ	5.4	33.2	33.2	19.2	2.3	6.6

表14 中学生・クラスタ別にみた身近な人 (母) と話す程度 (問10) (%)

	自分の気持ちや 悩みなども話す	その日あったでき ごとなどを話す	必要なこと だけ話す	聞かれた事に対す る返事だけする	まったく 話さない	身近にいない
第1クラスタ	12.5	49.1	25.0	7.1	2.7	3.6
第2クラスタ	11.6	40.1	29.3	10.8	2.6	5.6
第3クラスタ	20.2	50.4	21.6	5.6	1.0	1.2

表15 中学生・クラスタ別にみた身近な人 (祖父母) と話す程度 (問10) (%)

	自分の気持ちや 悩みなども話す	その日あったでき ごとなどを話す	必要なこと だけ話す	聞かれた事に対す る返事だけする	まったく 話さない	身近にいない
第1クラスタ	5.4	19.6	33.9	13.4	2.7	25.0
第2クラスタ	2.6	11.7	28.6	21.2	6.5	29.4
第3クラスタ	4.7	20.0	27.0	21.1	4.3	22.9

表16 中学生・クラスタ別にみた身近な人 (兄弟) と話す程度 (問10) (%)

	自分の気持ちや 悩みなども話す	その日あったでき ごとなどを話す	必要なこと だけ話す	聞かれた事に対す る返事だけする	まったく 話さない	身近にいない
第1クラスタ	3.8	17.3	26.0	11.5	7.7	33.7
第2クラスタ	6.0	19.4	18.5	11.6	7.9	36.6
第3クラスタ	4.8	21.2	24.2	11.7	3.8	34.1

表17 中学生・クラス別にみた身近な人（姉妹）（％）

	自分の気持ちや 悩みなども話す	その日あったでき ごとなどを話す	必要なこと だけ話す	聞かれた事に対す る返事だけする	まったく 話さない	身近にいない
第1クラス	6.5	13.1	29.9	9.3	4.7	36.4
第2クラス	9.3	13.9	13.9	14.8	6.5	41.7
第3クラス	9.6	19.2	19.5	8.4	2.9	40.4

表18 中学生・クラス別にみた身近な人（学校の先生）（％）

	自分の気持ちや 悩みなども話す	その日あったでき ごとなどを話す	必要なこと だけ話す	聞かれた事に対す る返事だけする	まったく 話さない	身近にいない
第1クラス	4.4	9.7	44.2	27.4	11.5	2.7
第2クラス	3.0	4.8	42.2	37.4	10.0	2.6
第3クラス	6.6	7.4	50.4	28.3	5.2	2.1

表19 中学生・友人関係でのストレス（問5）（上段が実数、下段が％）

	非常にある	ややある	あまりない	全くない
第1クラス	21	45	30	17
	18.6	39.8	26.5	15.0
第2クラス	45	98	64	26
	19.3	42.1	27.5	11.2
第3クラス	56	231	171	62
	10.8	44.4	32.9	11.9
合計	122	374	265	105
	14.1	43.2	30.6	12.1

表20 中学生・友人関係の満足度（問6）（上段が実数、下段が％）

	満足している	やや満足している	あまり 満足していない	全く 満足していない
第1クラス	36	51	21	5
	31.9	45.1	18.6	4.4
第2クラス	77	112	35	9
	33.0	48.1	15.0	3.9
第3クラス	218	223	68	11
	41.9	42.9	13.1	2.1
合計	331	386	124	25
	38.2	44.6	14.3	2.9



現代青少年の価値観に関する調査研究

表21 中学生・なりたい大人像 (問13)

(複数回答) (%)

	思いやりがある人	迷惑をかけない人	協調性がある人	責任感が強い人	正義感がある人	努力できる人	好奇心旺盛な人	礼儀正しい人	落ち着きのある人	国際的視野の広い人
第1クラス	43.0	21.1	7.9	27.2	14.0	17.5	3.5	32.5	11.4	7.0
第2クラス	30.5	14.6	4.3	19.7	9.0	15.9	5.6	14.6	9.0	3.4
第3クラス	46.0	17.7	4.4	27.1	8.1	26.7	1.9	31.7	7.5	3.1

	信頼される人	優しい人	健康的な人	自己管理ができる人	元気な人	おしゃべりな人	かっこいい人	きれいな人	常識のある人	親切な人
第1クラス	28.1	23.7	14.9	13.2	7.0	9.6	5.3	3.5	24.6	8.8
第2クラス	42.5	28.8	6.0	6.0	14.2	23.2	6.4	11.2	20.2	8.2
第3クラス	43.3	31.3	19.2	7.9	12.5	9.4	4.2	3.8	27.3	12.1

	年収の多い人	お金持ちの人	仕事で成功してる人	幸せな人	地域のために活動する人	明るい人	自分らしく生きている人	やりたいことをやっている人	特技を活かしている人	特にない	その他
第1クラス	7.0	10.5	3.5	21.1	7.9	15.8	39.5	29.8	12.3	1.8	5.3
第2クラス	11.2	24.5	12.9	34.8	0.9	25.8	36.1	27.5	9.9	0.4	2.1
第3クラス	6.2	12.5	8.8	21.5	2.5	19.2	32.3	17.3	8.3	1.2	1.3

表22 中学生・これからの日本は明るい暗いか (問16)

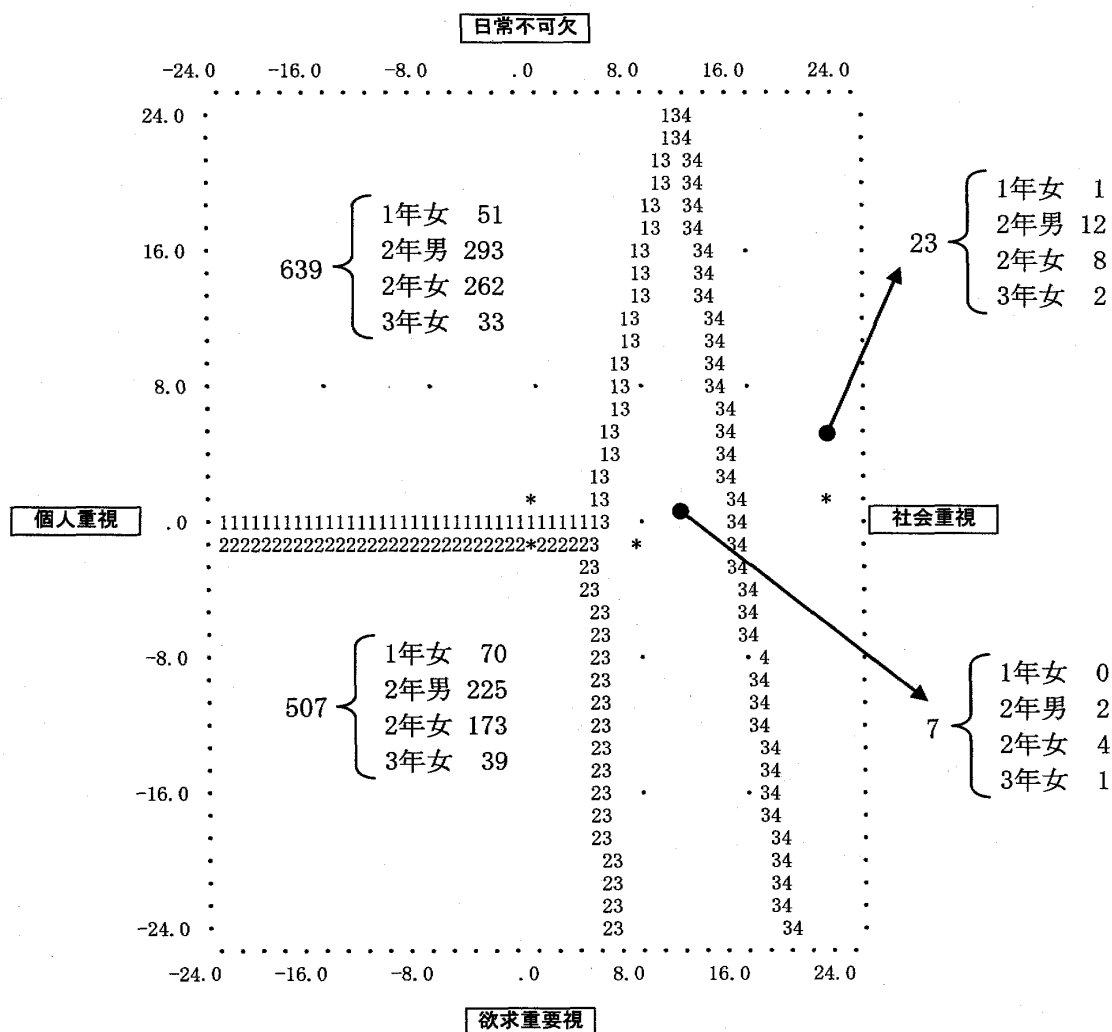
(%)

	明るい	どちらかといえば 明るい	どちらかといえば 暗い	暗い
第1クラス	3	31	54	25
	2.7	27.4	47.8	22.1
第2クラス	7	78	99	44
	3.1	34.2	43.4	19.3
第3クラス	25	207	224	51
	4.9	40.8	44.2	10.1
合計	35	316	377	120
	4.1	37.3	44.5	14.2

② 高校生の類型化

高校生は、図5のように、日常不可欠・個人重視型の第1クラスタ、欲求重要視・個人重視型の第2クラスタ、やや社会重視型の第3クラスタ、社会重視型の第4クラスタの4つのクラスタに分けられた。ただし、サンプルの分布は、第1クラスタと第2クラスタにほとんど含まれ、第3クラスタにはわずか7名、第4クラスタには23名しか含まれていない。個人重視の判断基準を有するサンプルがかなり多い傾向にあることがわかる。なお、高校生の回答は、1年生と3年生においては女性のみとなっている。

図5 高校生のクラスタ分割図



各クラスタの問3への回答の傾向をみると(表23)、第1クラスタでは、平均より10ポイント以上高い項目は、「家族」73.7%、「健康」68.0%、「勉強」34.1%で、平均より5～10ポイント高い項目は、「友だち」87.0%であった。第2クラスタでは、平均より10ポイント以上高い項目は、「お金」60.9%、「ケータイ」50.9%、「恋愛」47.8%、平均より5～10ポイント高い項目は、「寝ること」54.5%、「食べること」34.5%、「買い物」13.1%となっている。これらはほぼ中学生と同様の回答傾向である。これ以下の第3クラスタ・第4ク

現代青少年の価値観に関する調査研究

表23 高校生・クラス別に見た問3での回答

(複数回答) (%)

クラス番号 所属人数 全体割合 (%)	① 639 (54.3)	② 507 (43.1)	③ 7 (0.6)	④ 23 (2.0)	合計 1,176 (100)
1 健康	◎68.0	26.6	8.3	14.3	48.5
2 商店街の活性化	0.0	0.0	◎20.8	71.4	0.8
3 近所づきあい	4.8	1.2	◎29.2	◎14.3	3.8
4 自然環境の保持	8.7	0.8	4.2	◎28.6	5.3
5 恋愛	20.3	◎47.8	25.0	14.3	32.3
6 働くこと	7.7	10.0	◎29.2	○14.3	9.2
7 友だち	○87.0	79.4	25.0	14.3	82.0
8 食べること	22.3	○34.5	12.5	0.0	27.3
9 医療施設	0.3	1.3	◎25.0	◎28.6	1.4
10 結婚	2.2	4.0	4.2	0.0	3.0
11 ケータイ	3.6	◎50.9	29.2	14.3	24.7
12 お祭り	0.6	9.6	◎29.2	0.0	5.1
13 家族	◎73.7	32.4	12.5	0.0	54.1
14 子どもの遊び場	0.6	0.6	0.0	0.0	0.6
15 町内会	0.0	0.2	◎20.8	◎14.3	0.6
16 勉強	◎34.1	7.5	8.3	0.0	21.8
17 一家団らん	13.3	3.3	◎20.8	0.0	9.0
18 地域の災害防止	0.0	0.0	8.3	◎42.9	0.4
19 お金	33.3	◎60.9	25.0	0.0	44.9
20 買い物	2.5	○13.1	8.3	0.0	7.2
21 ブランド品を持つ	0.0	1.3	◎16.7	◎28.6	1.1
22 学校	19.2	9.8	8.3	0.0	14.8
23 有名になること	0.3	3.3	0.0	◎14.3	1.7
24 寝ること	38.5	○54.5	33.3	14.3	45.2
25 家事や仕事の手伝い	5.6	0.4	○12.5	◎14.3	3.5
26 公民館や図書館	2.0	0.6	4.2	0.0	1.4
27 防犯パトロール	0.0	0.0	◎12.5	◎85.7	0.8
28 ボランティア活動	3.4	0.6	8.3	◎14.3	2.3
29 地元の特産品	0.0	0.0	◎20.8	◎42.9	0.7
30 インターネットのショッピングサイト	0.2	0.4	○8.3	◎14.3	0.5

◎：平均より10ポイント以上高いもの  
 ○：平均より5～10ポイント高いもの  
 ※第3クラス、第4クラスは全体数が少ないため参考

ラストについては、サンプル数が少ないため参考となるが、第3クラスでは、平均より10ポイント以上高い項目は、「近所づきあい」「働くこと」「お祭り」29.2%、「医療施設」25.0%、「商店街の活性化」「町内会」「一家団らん」「地元の特産品」20.8%、「ブランド品を持つ」16.7%、「防犯パトロール」12.5%で、平均より5～10ポイント高い項目は、「家事や仕事の手伝い」12.5%、「インターネットのショッピングサイト」8.3%となっている。第4クラスでは、平均より10ポイント以上高い項目は、「防犯パトロール」85.7%、「商店街の活性化」71.4%、「地域の災害防止」「地元の特産品」42.9%、「自然環境の保持」「医療施設」「ブランド品を持つ」28.6%、「近所づきあい」「町内会」「有名になること」「家事や仕事の手伝い」「ボランティア活動」「インターネットのショッピングサイト」14.3%で、平均より5～10ポイント高い項目は、「働くこと」14.3%であった。

高校生については、第1クラスと第2クラスに限って、中学生の場合と同様に調査のほかの質問項目とのクロス集計を試みたところ、高校生においても各クラスの大切にしているものの違いによって、回答比率にやや差があらわれた。家族とのかかわり方では、第1クラスの方が、家族と一緒に食事をし、父母との会話も多い（表24～27）。友人との関係では、第1クラスの方が友人との関係にあまりストレスがなく、現在の友人関係に十分満足している比率が高い傾向にあった（表28・29）。

表24 高校生・クラス別にみた朝食を一緒に食べる人（F5）（複数回答）（%）

	父親	母親	兄弟・姉妹	ひとりで食べる	食べない
第1クラス	25.8	31.9	36.3	44.1	2.5
第2クラス	16.6	23.7	27.0	49.5	11.4

表25 高校生・クラス別にみた夕食を一緒に食べる人（F6）（複数回答）（%）

	父親	母親	兄弟・姉妹	ひとりで食べる	食べない
第1クラス	43.2	68.7	54.9	26.4	0.5
第2クラス	35.1	55.2	44.2	36.7	2.8

表26 高校生・クラス別にみた身近な人（父）と話す程度（問10）（%）

	自分の悩みや気持ちなども話す	その日あったできごとなどを話す	必要なことだけ話す	聞かれた事に対する返事だけする	まったく話さない	身近にいない
第1クラス	48	198	224	96	18	49
	7.6	31.3	35.4	15.2	2.8	7.7
第2クラス	21	104	176	112	36	54
	4.2	20.7	35.0	22.3	7.2	10.7

表27 高校生・クラス別にみた身近な人（母）と話す程度（問10）（％）

	自分の悩みや気持ちなども話す	その日あったことなどを話す	必要なことだけ話す	聞かれた事に対する返事だけする	まったく話さない	身近にいない
第1クラス	165	289	139	31	1	9
	26.0	45.6	21.9	4.9	0.2	1.4
第2クラス	65	208	151	53	11	15
	12.9	41.4	30.0	10.5	2.2	3.0

表28 高校生・友人関係でのストレス（問5）（上段が実数、下段が％）

	非常にある	ややある	あまりない	全くない
第1クラス	56	311	214	56
	8.8	48.8	33.6	8.8
第2クラス	69	231	153	53
	13.6	45.7	30.2	10.5

表29 高校生・友人関係の満足度（問6）（上段が実数、下段が％）

	非常にある	ややある	あまりない	全くない
第1クラス	248	308	71	8
	39.1	48.5	11.2	1.3
第2クラス	174	259	57	15
	34.5	51.3	11.3	3.0

将来についての考え方では、なりたい大人像については（表30）、第1クラスと第2クラスで5～10ポイント差がある項目をみると、第1クラスのほうの比率が高いのは「思いやりがある人」「責任感が強い人」「努力できる人」「礼儀正しい人」「健康的な人」であった。一方、第2クラスのほうの比率が高いのは「おしゃれな人」「きれいな人」「年収の多い人」「お金持ちの人」「幸せな人」であった。やはり、中学生と同様に、各クラスの現時点での価値判断基準で、なりたい大人像を描いているようである。日本の将来については、第2クラスの方がはっきりと「暗い」と答える比率が高かった（表31）。

表30 高校生・なりたい大人像（問13）（複数回答）（％）

	思いやりがある人	迷惑をかけない人	協調性がある人	責任感が強い人	正義感がある人	努力できる人	好奇心旺盛な人	礼儀正しい人	落ち着きのある人	国際的視野の広い人
第1クラス	45.5	13.8	14.4	27.4	7.5	22.7	5.6	27.4	9.7	3.9
第2クラス	36.5	14.4	9.5	19.9	4.3	12.4	6.1	17.6	10.1	4.1

(表30続き)

	信頼される人	優しい人	健康的な人	自己管理ができる人	元気な人	おしゃれな人	かっこいい人	きれいな人	常識のある人	親切な人
第1クラス	40.1	27.2	16.4	8.8	7.8	10.5	3.8	4.2	30.7	6.9
第2クラス	37.9	32.1	9.9	5.9	10.8	22.1	7.9	11.2	26.4	4.7

	年収の多い人	お金持ちの人	仕事で成功してる人	幸せな人	地域のために活動する人	明るい人	自分らしく生きている人	やりたいことをやっている人	特技を活かしている人	特にない	その他
第1クラス	5.2	9.7	7.5	26.0	0.5	11.3	33.6	21.9	6.4	0.5	1.9
第2クラス	10.7	17.9	10.3	32.0	1.4	13.2	30.0	23.9	6.1	1.8	1.2

表31 高校生・これからの日本は明るい暗いか (問16) (%)

	明るい	どちらかといえば 明るい	どちらかといえば 暗い	暗い
第1クラス	26	243	284	62
	4.2	39.5	46.2	10.1
第2クラス	24	158	225	79
	4.9	32.5	46.3	16.3

### ③大学生等の類型化

大学生等の場合には、社会重視型の第1クラス、非日常希望的・個人重視型の第2クラス、日常現実的・個人重視型の第3クラス、やや社会重視型の第4クラスの4クラスに分けられた(図6)。大学生等からの回答は、大学1年生から4年生、専門学校生、社会人ともに男女とも得られている。ただし、サンプル数は、第3クラスに圧倒的に多く、第1・第4クラスはごく少数の分布となった。個人重視の判断基準を有する者が大学生等でも多いことを示している。

各クラスの間3での回答をみると(表32)、第2クラスでは、平均より10ポイント以上高い項目は、「お金」56.7%、「働くこと」31.6%、「ケータイ」「買い物」22.5%で、平均より5~10ポイント高い項目は、「恋愛」46.4%、「寝ること」44.0%、「お祭り」10.9%、「結婚」10.1%、「近所づきあい」9.3%であった。第3クラスでは、平均より10ポイント以上高い項目は、「友だち」91.1%、「家族」74.1%、「健康」69.8%となっており、平均より5~10ポイント高い項目はなかった。サンプル数の少ないクラスについては、参考までにみると、第1クラスでは、平均より10ポイント以上高い項目は、「防犯パトロール」85.7%、「商店街の活性化」「町内会」「地域の災害防止」「公民館や図書館」「地

元の特産品」42.9%、「子どもの遊び場」28.6%、「医療施設」「インターネットのショッピングサイト」14.3%であり、平均より5～10ポイント高い項目は、「お祭り」「ボランティア活動」14.3%となっている。第4クラスタでは、平均より10ポイント以上高い項目は、「商店街の活性化」「お祭り」26.1%、「自然環境の保持」「医療施設」「一家団らん」21.7%、「公民館や図書館」「防犯パトロール」「地元の特産品」17.4%、「町内会」「インターネットのショッピングサイト」13.0%で、平均より5～10ポイント高い項目は、「地域の災害防止」「ブランド品を持つ」「家事や仕事の手伝い」8.7%であった。

大学生等については、調査のほかの質問項目への回答において、クラスタ別で顕著に違いの点はなかった。

図6 大学生等のクラスタ分割図

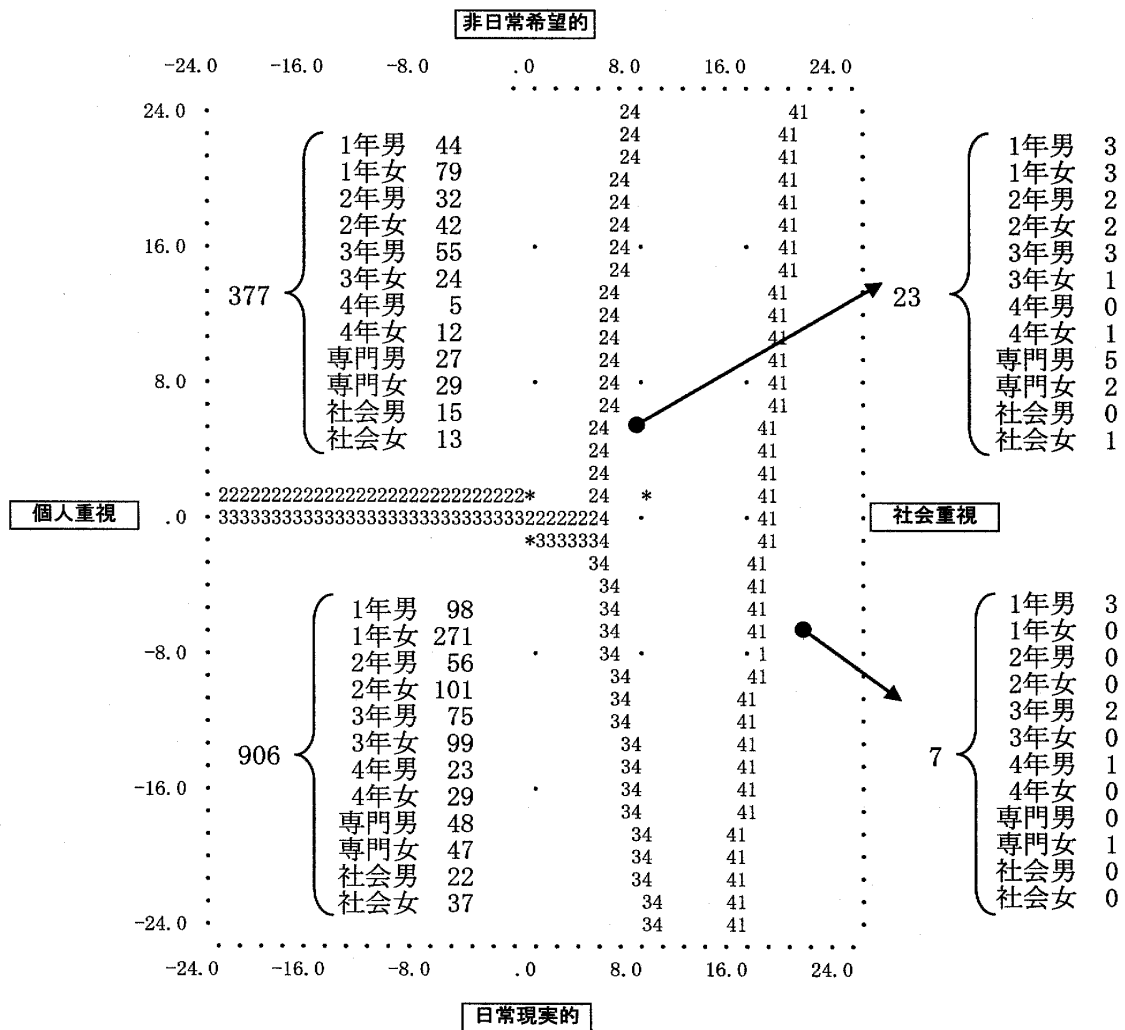


表32 大学生等・クラス別に見た問3での回答

(複数回答) (%)

クラス番号 所属人数 全体割合 (%)	① 7 (0.5)	② 377 (28.7)	③ 906 (69.0)	④ 23 (1.8)	合計 1,313 (100)
1 健康	28.6	32.4	◎69.8	52.2	58.5
2 商店街の活性化	◎42.9	0.0	0.0	◎26.1	0.7
3 近所づきあい	0.0	○9.3	0.9	4.3	3.4
4 自然環境の保持	0.0	8.0	5.0	◎21.7	6.1
5 恋愛	0.0	○46.4	34.8	8.7	37.5
6 働くこと	14.3	◎31.6	16.0	21.7	20.6
7 友だち	14.3	53.6	◎91.1	34.8	78.9
8 食べること	0.0	31.1	27.2	13.0	27.9
9 医療施設	◎14.3	2.6	0.2	◎21.7	1.3
10 結婚	0.0	○10.1	1.7	4.3	4.2
11 ケータイ	0.0	◎22.5	3.3	8.7	8.9
12 お祭り	○14.3	○10.9	1.2	◎26.1	4.5
13 家族	0.0	26.2	◎74.1	39.1	59.3
14 子どもの遊び場	◎28.6	3.6	0.5	4.3	1.6
15 町内会	◎42.9	0.0	0.0	◎13.0	0.4
16 勉強	0.0	9.3	22.6	8.7	18.4
17 一家団らん	14.3	9.3	12.2	◎21.7	11.6
18 地域の災害防止	◎42.9	0.0	0.0	○8.7	0.4
19 お金	14.3	◎56.7	40.4	34.8	44.9
20 買い物	0.0	◎22.5	1.8	4.3	7.8
21 ブランド品を持つ	0.0	2.1	0.4	○8.7	1.0
22 学校	0.0	7.8	21.6	4.3	17.2
23 有名になること	0.0	6.0	0.0	4.3	1.8
24 寝ること	28.6	○44.0	36.3	17.4	38.2
25 家事や仕事の手伝い	0.0	2.6	3.7	○8.7	3.4
26 公民館や図書館	◎42.9	0.5	0.9	◎17.4	1.3
27 防犯パトロール	◎85.7	0.0	0.0	◎17.4	0.7
28 ボランティア活動	○14.3	4.4	4.6	4.3	4.6
29 地元の特産品	◎42.9	0.0	0.0	◎17.4	0.5
30 インターネットのショッピングサイト	◎14.3	2.1	0.5	◎13.0	1.3

◎：平均より10ポイント以上高いもの

○：平均より5～10ポイント高いもの

※第1クラス、第4クラスは全体数が少ないため参考



#### 4. 考察

青少年が日頃大切にしたり、大切だと思ったりしていることについての調査結果について、カテゴリ主成分分析とクラスタ分析を行うことによって、2つの価値判断基準を析出し、中学生については3類型、高校生、大学生等については4類型に分類することができた。単純集計結果も含めて、この分析結果から何を読み取ればよいであろうか。ここでは以下の3点を指摘しておきたい。

第1点目は、この調査で明らかにできた現代青少年の価値判断基準は「個人的なものの重視」に著しく偏っていることである。すでに述べたように、単純集計結果の時点で個人的なものを重視した選択肢の比率が高く、カテゴリ主成分分析においても析出された軸の一つは、中学生、高校生、大学生等のいずれでも「個人重視-社会重視」であった。また、クラスタ分析での類型化においても、特に高校生や大学生等では、サンプルの分布が個人重視のクラスタに著しく偏ってしまい、社会重視の方向のクラスタの人数は、2つのクラスタを合わせても全体の3%足らずであった。

このような青少年の価値判断基準を、私たちはどうとらえていけばよいのであろうか。戦後60年をかけて日本の目指してきた社会が、豊かで個人が尊重される社会であったとすれば、青少年の大切なものの判断基準の中心が「個人的なものの重視」であることは、ある意味、当然かつ妥当な結果ともいえる。青少年に何かしらの落ち度があって、このような判断基準を持つようになったとは想定しがたい。ただし、これからの社会を見通した場合に、この判断基準のみで大切なものが選ばれていっていいものかどうかを考えると、それは検討の余地があるのではないだろうか。人間が社会という集団を作って生活を営まなければ生きていけない種である以上、今後だれもが生きやすい環境の整った社会づくりを考えた場合には、一人ひとりの価値判断基準に、個人のことだけでなく、もう少し社会を意識したものも加えられる必要があるだろう。

第2点目は、その社会を意識した判断基準は、カテゴリ主成分分析で析出された第2軸のような判断基準を発展させて身につけることができるのではないかという点である。第2軸は、大切なものを、日常生活を送る上で大切と思うもの（中高生では「日常不可欠」、大学生等では「日常現実的」と命名）と、どちらかといえば非日常的で中学生、高校生の場合には「こうしたい」という欲求が表面化するもの（中高生では「欲求重要視」、大学生等では「非日常希望的」と命名）とに分ける判断基準であった。このことは、日々の何気ない生活の積み重ねが、大切なものの判断基準に影響していると解釈できる。そうであれば、その日常で、社会との接点が増えれば、自ずと社会を意識した判断基準が形成されるのではないだろうか。今回の調査結果でも、大学生以上になれば、2軸において、日常的の対極は欲求重視ではなく、非日常ながらも社会的なことを意識したものに变化している。これは、大学生以上では中学生・高校生よりも生活経験や社会経験が豊富になることで、彼らの判断基準が変化してきた結果ととらえられる。日常の中で、徐々に人間の集団や社会に眼を向ける考え方や活動を広げていくことが、青少年の価値判断基準の変化をもたらす重要な方法の1つと考えられる。

第3点目は、青少年の現時点での価値観が、彼らの将来の見方に影響を与えている点である。特に中学生においては、クラスタ別でなりたい大人像に違いがみられた。例えば、

社会重視型の第1クラスタのなりたい大人像は「正義感が強い人」や「落ち着きのある人」などで、欲求重要視・個人重視型の第2クラスタでは「おしゃれな人」「お金持ちの人」など、日常不可欠・個人重視型の第3クラスタでは「努力できる人」「親切な人」などであった。人間の在り方については、古くからいろいろなことが言われてきており、大人は子どもに向かって「こういう人（大人）になるんですよ」などとよく口にするが、青少年はそのようなことを見聞きして大人像を描くというよりは、日頃の自分たちの価値観を基準になりたい大人像を考えているようである。また、よく一般的に望ましいとされる「思いやりがある人」「責任感が強い人」「礼儀正しい人」のような大人像は、第1クラスタや第3クラスタでの比率が高く、欲求重要視の第2クラスタでは比較的低い比率となった。このことは、青少年が自らの意思で一般的に望ましいとされる大人像をめざすようになるためには、まずは彼らの価値判断基準が社会を意識したものに変わるしかないことを示していると考えられる。語弊のある言い方かもしれないが、いい大人によって成り立ついい社会を形成するためには、青少年の日常での社会体験を増やし、彼らに社会を意識した価値判断基準を身につけていってもらうことが重要であろう。

青少年期は発達途上であり、自我を確立していく中で、わき出てくる欲求と理性のバランスをいかにとっていけばよいか葛藤を繰り返す時期である。そのため、価値判断の基準も個人的なことや欲求を重視したものになりがちかもしれない。しかし、そういう時期だからこそ、少しだけでも自分以外のことや社会にも目を向ける機会を持ち、より広い視点から大切なものを考えることも学んでほしいものである。

## 5. おわりに

2006年12月の教育基本法の改正により、伝統や地域・国を大切にすることや、道徳心の向上が公教育の目指すものとして注目されている。最近まで「道徳」の教科化も検討された。今回、青少年の価値観を分析していく中で、価値観もかかわる道徳心や規範意識の醸成は、勿論、学校教育で重視されるべきものであろうが、それよりも大人の作る社会全体の目指すべき方向が、まずは道徳的であり規範意識のある社会であること、そして、青少年がそのような社会での実体験を日常的に増やして、自ら社会を意識した価値判断基準を作り上げていくようになることが緊々の課題ではないかと感じた。

そのような青少年の体験を増やす鍵は、地域社会ではないだろうか。地域社会は、我々の日常生活の中で最も身近な社会である。家のドアを開ければ、個人や家族で有する経験とはまた違ったことがすぐ体験できる環境であれば、社会体験のチャンスは自然と増えるであろう。この地域社会が、少子高齢化などの時代の変化に敏感に対応した仕組みを有し、市民意識を醸成できるような場となることを期待したい。

本研究で取り上げた質問項目は、その選択肢の設定において、もっぱら日常の生活場面を想定した。また、「社会的なものを重視」する枠組みからの選択肢の抽出にあたっては、青少年の実生活にあまりなじみのない項目を選んでしまったきらいがある。青少年の価値観をより鮮明にできる質問項目設定の検討が、今後の研究上の第1の課題である。また、分析方法についても、ここではカテゴリ主成分分析及びクラスタ分析を用いたが、ほかの解析方法の使用も検討の余地がある。この点が第2の課題である。

最後に、本研究にあたり、調査結果を提供して下さった静岡県青少年問題協議会及び静岡県教育委員会、調査結果の分析及び図表の作成に多分にお力添えくださったサーベイリサーチセンター静岡事務所の一杉浩史氏をはじめとするスタッフの皆様に、厚くお礼を申し上げる次第である。

#### 注

1. この調査は、平成18年11月～12月に、静岡県内の中学生、高校生、大学・短大生、専門学校生、青年期の社会人を対象に、中学校・高校・大学・短大・専門学校への調査票の配布・回収及び社会人への郵送での配布・回収により、無記名方式で行われた。調査票の回収数は3,433票で、回収率は91.6%であった。調査の詳細は、静岡県青少年問題協議会・静岡県教育委員会『平成18年度現代青少年の意識及び生活実態等に関する調査』平成19年3月を参照。
2. 詳しくは、山本恒夫「社会教育活動分析の枠組み－行動科学的アプローチ」、『国立社会教育研修所紀要第1集』41頁、昭和42年を参照。
3. カテゴリ主成分分析とは、カテゴリ変数（質的変数）を数量化して、いくつかのグループにまとめる方法である。数量化に際しては、単に変数を足し合わせるのではなく、最適な重み付けをする最適を用いている。この分析では、はじめから何らかの基準（外的基準という）を予測設定してデータを分析するのではなく、まずは回答者の回答傾向なども含めてデータの分析を行い、分析結果が出てきてから、それがどのような原因や基準をもとに出てきたものなのかを検討するというタイプのものである。詳しくは、国立教育政策研究所社会教育実践研究センター（土屋隆裕執筆）『社会教育調査ハンドブック』文憲堂、平成17年、石村貞夫・石村光資郎著『入門はじめての多変量解析』東京図書株式会社、平成19年などを参照。
4. カテゴリ主成分分析、クラスタ分析には、一般に使用頻度の高い統計ソフトSPSS（SPSS for Windows 11.0.1J）を用いた。